

「防災の日」にあたって

本日9月1日は何の日か知っていますか？

9月1日は「防災の日」です。1960年に定められました。その前年には、東海地方に大きな被害をもたらした「伊勢湾台風」、さらに遡って、1923年9月1日に、10万人を超える人々が犠牲となった関東大震災が起こっています。発生からちょうど100年となりました。これらを踏まえ、地震・風水害に対する防災意識を高めることを目的に定められたのが、「防災の日」です。

学校では、この防災の日にちなみ、7月の避難訓練と併せて、皆さんに防災に対する心構えを持ってもらうようにしています。地震、火事、風水害、いずれも、自分の身は自分で守るという意識が大切です。

自分の身をどのように守るか？ 避難する場合は、どの経路、どの道を通ったらよいか？ 家族や親戚との待ち合わせ場所はどこにするか？ その連絡方法は？ というように、日頃から考え、意識し、事が起きた時には、素早く行動できるようにして欲しいと思います。

様々な災害は、事前の予告なくやってきます。つい先日も台風による長雨や停滞前線により大雨に見舞われ、川が氾濫し、各地で大きな被害が生じました。私たちが事前にできることは、予測不能の避けられない自然災害に対して普段から危機意識をもつことだと思います。

「災害は忘れた頃にやって来る」。もしかしたら今日来るかもしれないという危機意識を持ちつつ、日々の生活を送る、そして、時々普段の生活を振り返ってみてください。

名古屋市立中央高等学校
校長 山口大二